

会 議 録

☐全部記録 ☒要点記録

1 会 議 名	第 1 回姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画策定会議
2 開催日時	令和 8 年 5 月 2 2 日（金曜日） 1 4 時 0 0 分～ 1 5 時 5 0 分
3 開催場所	姫路市役所 1 0 階 第 2 会議室
4 出席者又は欠席者名	委員 1 7 名（内、 2 名欠席） 健康福祉局長 事務局：長寿社会支援部
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可・傍聴人： 1 名
6 議題又は案件及び結論等	(1) 委員紹介 (2) 第 10 期姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画策定方針 (3) 姫路市の人口動態 (4) 計画の構成 (5) 基本施策について (6) 高齢者向けの住まいについて
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

健康福祉局長	皆様には日頃から本市の高齢者福祉行政の推進にご支援ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。また、本日は委員をお引き受けいただき重ねてお礼申し上げます。昨年は2025年問題と言われた団塊の世代がすべて高齢者となった。今後は高齢化が一層進展し、介護リスクの高い85歳以上の人口の急増と、生産年齢人口の急減が2035年から2040年にかけて見込まれている。本計画では認知症施策推進計画としての位置づけでもあり、認知症の方本人の声を尊重し、希望を持って生活できる環境を目指す。委員の皆様にはそれぞれの立場から忌憚のない意見を賜りたい。
事務局	本日は第1回開催であるため、委員の皆様を紹介する。 (1) 委員紹介 ・省略 本日の会議では、第10期となる姫路市高齢者保健福祉計画及び姫路市介護保険事業計画の策定方針、背景となる姫路市の人口動態、計画の構成、計画を達成するための基本施策、高齢者向けの住まいについて、ご意見を賜りたいと考えている。ここからの進行は姫路獨協大学学長の座長にお願いする。
座長	今回は第10期の分野別計画であり、高齢者の生活と介護保険という非常に重要な分野の計画である。人生の終盤を迎える高齢者の皆様が幸福な人生を過ごせるよう、皆で知恵を出し合い行政とともに考えていきたい。まず、(2)～(5)について事務局より説明をお願いする。
事務局	(2) 第10期姫路市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定方針 (3) 姫路市の人口動態 (4) 計画の構成 (5) 基本施策について (質疑応答)
A委員	6ページの「深化」について、一定の構築ができてそれを深化させるというイメージがどういうことか説明してほしい。
事務局	2000年に介護保険制度が始まってから26年経つ。地域包括ケアシステムは、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けられるよう、各種サービスが一体的に提供される体制の「構築」を目指してきた。これからの「深化」とは、人口動態の変化、特に認知症高齢者や身寄りのない単身世帯の増加といった社会の変化に対応していくことを意味している。
B委員	人生会議について、興味がないという高齢者が多いことについて意見がある。本人が自宅で最期を迎えたいと思っても、救急搬送され病院で亡くなるケースが多

	い。自分がどういう人生の最期を迎えたいかを元気なうちから話し合っておく必要があり、人生会議の重要性を施策の中でもっと強調してほしい。
C 委員	通いの場の助成金申請が煩雑で、地域の方々が活動をやめてしまうことがある。もう少しハードルを下げしてほしい。また、福祉・介護業界は本当に人手不足であり、人材確保について積極的に協力してほしい。
事務局	通いの場の助成金については、手続きを簡略化できるよう見直しを進めている。人材確保については、ケアマネジャー更新費用の補助や外国人材支援などを予定しているが、金銭的な補助だけで十分かは課題であるため、効果的な施策を引き続き検討したい。
D 委員	基本理念の「高齢者が住むほどに好きが深まり」という表現が、個人的には少し分かりにくいと感じる。「愛着が深まる」や「魅力が深まる」といった言葉に変えた方が良いのではないかと思う。
事務局	基本理念は、最終的に目指す「笑顔あふれるまち」というイメージに加え、市民のみなさんが自由に姫路ライフを満喫し、好きなことややりたいことへの挑戦を重ねる中で、歳を重ねるごとに“好き”の理由が増え、深まっていくという特徴を表現した市のブランドメッセージである「住むほどに“好き”が深まる“姫”のまち」を引用して作成した。
E 委員	15 ページの基本施策 5「認知症の人に優しい地域づくりの推進」について、「高齢者が認知症になっても支援を受けながら」とあるが、「支援を受けながら」という表現は古い認知症観ではないか。
事務局	修正する。
F 委員	17 ページ以降の調査結果について、調査対象者の内訳を見ると、一般が高齢者の大半を占めており、認定を受けている人の割合が非常に少ない。この調査自体は重要だが、我々が普段関わっている介護度の高い人たちの課題が十分に反映されていないのではないかと感じる。ケアマネジャーや介護事業者が日々感じている困りごと、今後の施策に落とし込んでほしい。
事務局	ご意見は受け止め、今後の検討に活かしたい。
G 委員	人生会議という言葉を知った。本人や家族が最期をどう過ごすかを考えるのは難しいことだと思うが、市としてどう啓発していくのか参考にしたい。

座長	高齢者向けの住まいについて第9期計画の進捗状況を踏まえ、事務局から説明をお願いします。 (6) 高齢者向けの住まいについて ・事務局より資料説明 (質疑応答)
F 委員	特養等の募集を行わないことについて、既存の施設で充足しているという感覚はある。新しいものを建てないという方向性は理解できるが、既存の施設は老朽化が進んでおり、修繕費用も高騰している。現在の補助金の限度額では大規模改修ができず、小規模改修を繰り返している状況である。
事務局	大規模改修に関する補助金については、条件が厳しく使いにくいことは認識しており、国への要望を継続していく。資材価格の高騰等もあるため、引き続き国に要望していきたい。
H 委員	生活保護受給者や重度介護者などにとっては、特養など既存施設の役割は依然として重要である。継続に向けた支援をお願いしたい。
I 委員	生涯現役という言葉があるが、定年が延長され70歳まで働く人が増えている。そのため、地域包括ケアシステムを地域で支える担い手(民生委員や老人クラブなど)の確保が難しくなっている。行事の参加者も減少傾向にあり、支え手側のボランティア等の人材確保が今後の課題であると感じる。
J 委員	認知症カフェと一般的な地域の通いの場との役割分担や位置づけを、今後どのように整理していくのか検討してほしい。
K 委員	一人暮らしの高齢者への訪問を行うと大変喜ばれ、話し相手を求めていることがわかる。また、外出して体操や講話に参加もすすめている。しかし、長く働く人が増えたり、孫の世話があたりと、活動の担い手が減少している。地域の様々な団体と協力しながら、高齢者の居場所づくりを継続していきたい。
L 委員	フレイル予防の取り組みについて、市から様々な講座が提供されているが、対象となる高齢者自身に興味を持ってもらうのが難しい。「悪くならないと行動しない」という傾向があり、どのように関心を引くかが課題である。人生会議についても同様で、差し迫った状況にならないと行動に移さない人が多い。もっと積極的なPRや啓発活動が必要である。
M 委員	人生会議の認知度が低いという話があったが、薬局は生活動線上にあり、身近な健

N委員	康相談の拠点として活用できるのではないかな。 支え合いの仕組みにおいて、制度による支援だけでなく、住民同士の互助や地域のつながりをどう作っていくかが重要である。「認知症の相談場所がわからない」という人が70%もいるというデータが示すように、専門職以外の一般の住民に対する啓発や情報伝達が不足している。今後の計画において、住民への啓発をどう進めていくかが課題である。人生会議も含め、生きるためのライフプランニングとしてどう活用していくか、関係機関で協力していきたい。
座長	予定の時間となった。第1回会議として皆様の忌憚のない意見に感謝する。それぞれの立場で共に考える良いスタートとなった。これで意見交換を終了し、事務局に進行を戻す。
事務局	本日は貴重な意見をいただき感謝する。会議の議事録は後日皆様に確認いただき、確定後に市ホームページで公開する。次回の第2回会議は8月31日に開催予定であり、後日案内する。 本日はご出席いただき、多数の意見を頂戴し感謝する。本計画は令和9年度からの3か年計画だが、2035年、2040年を見据えた高齢者福祉の指針となるものである。来年3月の策定に向け、次回以降も忌憚のない意見をお願いしたい。本日はありがとうございました。